

三角形のバルコニーをもつ小ビル

Small Building with a Triangular Balcony

今井 裕夫

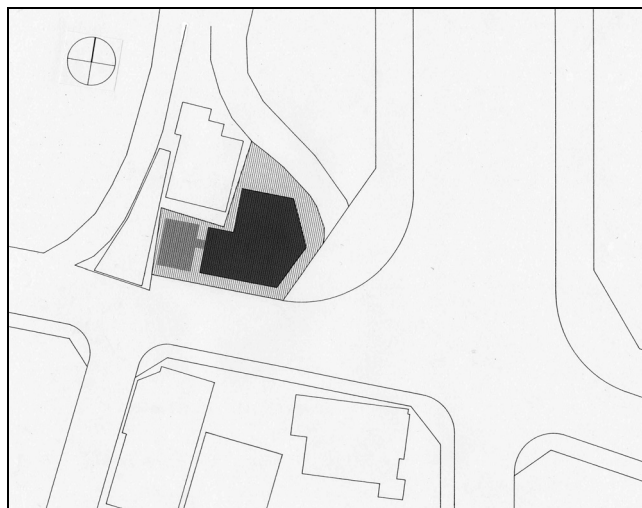
Hiroo IMAI

Small Building with Triangular Terrace

The work described in this paper is the reconstruction of a residential business located in an old but modern area of a city. A new built road necessitated the destruction of the previous building and misfigured the plot of land it was located on. The resulting appearance of the new building was shaped by these unavoidable circumstances. As the building projects into a bend of the wide new road, one concept was to assign to it the role of a neighborhood landmark. Another design theme was to explore to what degree a residence could spontaneously function inside an unusually shaped plot of land. While this work is but a small building located on an irregularly shaped plot of land, it aims to make order out of disorder.

要約：今風ではあるが、古くからある集落の一隅を、新しい計画道路がかすめることになり、家は全壊し、土地の面積は半減し、かつ不整形この上ない形状を余儀なくされた条件での作品である。この作品は、広い計画道路に直接面することになり、この集落付近のランドマークとしての役割をもたせることと、のびやかな住宅機能を不整形な敷地の中にいかに獲得するかを主題としている。広い道路の隅切角は、その敷地に立つ建築のフォルムの形成に大きく投影する。この作品は、不整形な土地での小さな建築であるが、かたちのオーダーに貫かれたランドマークをめざしている。

キーワード：不整形、細い構造柱、三角バルコニー、隅切角、フォルム



1 概要

この敷地より北へ約5kmの高富町の地点を東海環状自動車道が、東西に走ることになり、この道とクロスするよう県道265号線（岐阜～高富線）があり、この道路のJUNCTION機能と県道の混雑緩和のための県道265号線のバイパス道路が計画された。その整備の岐阜市側のスタート地点が、下岩崎の交差点となった。整備に伴い新しく区画整理が行われ、立ち退く人、土地を減らす人が発生した。この建築は、この状況の中で、既存建築は建て替え、土地は不整形にて半減、計画道路の西北の隅切角に直面する敷地での構想条件となった。

岩崎の集落は、古くは土岐氏の時代に砦があり、東側に百々ヶ峰の岩肌が、急峻に降り、西側からは、鶴山が、鳥羽川右岸にチャートの岩肌を切り立たせて、三田洞、高富方面へ狭隘口を形成している。平地の地盤は、鳥羽川の扇状地盤であり、1m程度の表土（畑土）を除けば、N値30～40程度の砂礫の土質が確認され、粘土層の包含がなければ、十分な地耐力が確認された。新バイパスは新しい道路景観を作り出し、この建物は、岐阜市側のスタート地点としての記憶装置、ランドマークとして構想された。

[外部]

道路の大きな隅切角を正面にもつため、構えの平面的な解決が命題となった。その経緯は図①に示す通りである。1階が、店舗（設計スタジオライズ）であるため、東側道路を建物の正面と考え、店舗への背面となる西側には1階ガレーヂと2階に物干しヴェランダが作られ、横格子塀による呼吸する壁で囲繞するHIDDEN SPACEを確保した。（L. カーンが唱えるサーバントスペース、サーバドスペースの関係のようにHIDDEN SPACEとMAIN SPACEの関係）

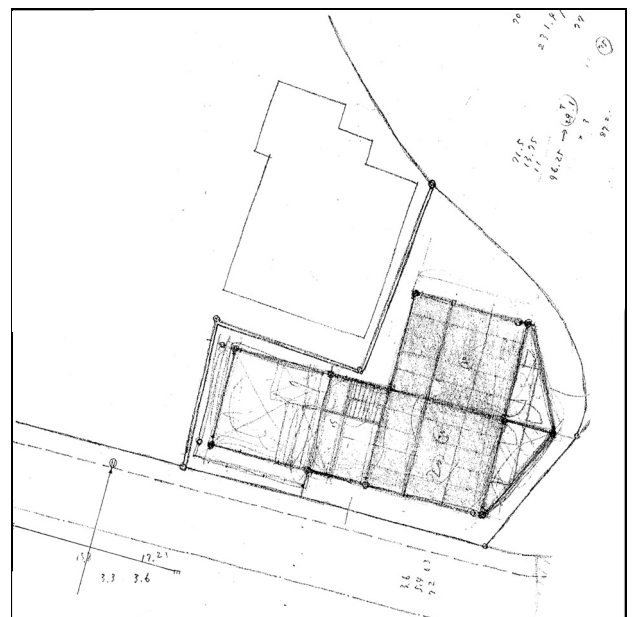
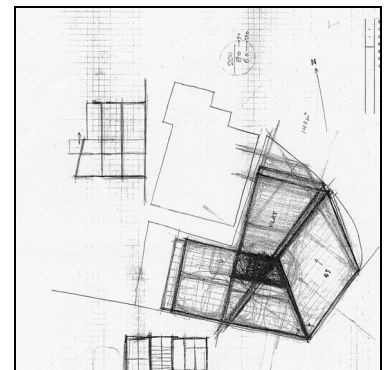
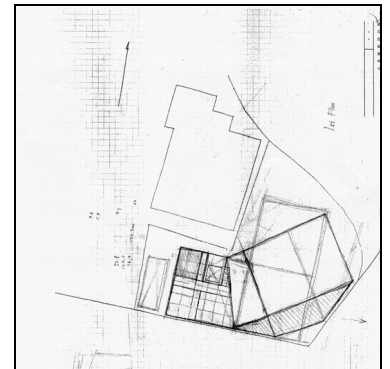
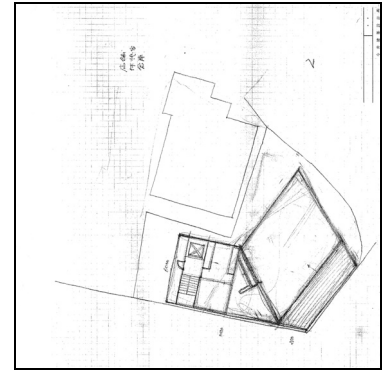
この付属屋は低層2階とした。これは隣接する北側住居の南側の日照を配慮した結果である。

[内部]

階段室は踏場壁背面を書棚とし、階段室の部屋化を計るため、踏板のみの階段とすることにより、空間のsequenceを確保し、子供の遊戯空間を意識した。

LDKはのびやかな広い空間とし、家族が三々五々訪れる親和性のある空間の質とした。この空間は、2階で建物全体の重心的なSITUATIONに位置する。3階は勾配屋根のロフト空間（4階）を設け、東側の百々ヶ峰の岩肌と繋いでいる。

三角形のバルコニーは簀子とし、3階の室内と連続した空間として意図した。空間の親和性は空間のディテールの一端に宿る。



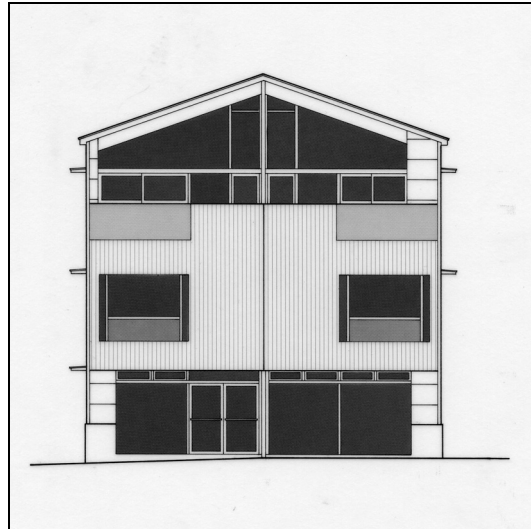
三角形のバルコニーをもつ小ビル



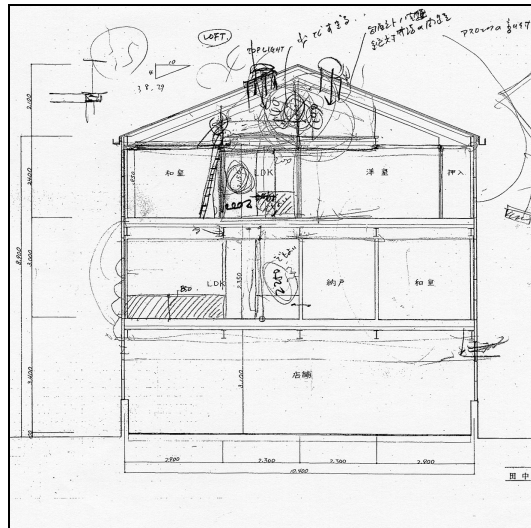
4階ロフトから百々ヶ峰を見る



3階室内と三角形のバルコニー



正面図



断面スケッチ

主な用途： 店舗併用住宅 Main use : Store and House

敷地面積： 180.85 m² Site area : 180.85 m²

建築面積： 111.47 m² Building area : 111.47 m²

延床面積： 261.40 m² Total area : 261.40 m²

敷地面積： 261.40 m²

建築面積・建蔽率： 111.47 m²・61.64%<79.62%

延床面積・容積率： 261.40 m²・131.91%<200.00%

各階面積： 1階 95.22 m²

2階 91.02 m²

3階 75.16 m²

規模： 地上3階

高さ： 最高高さ 11.555m 軒高 11.425m

構造： 鉄骨造

地域地区： 近隣商業地域・準住居地域

準防火地域

道路幅員： 東側 24m 南側 6m

外部仕上： 屋根 カラーステンレス貼 t 0.4

外壁 押型成型セメント板 t 50

コンクリート打放し

開口部 アルミニウム製サッシュ

内部仕上： 床 ナラフローリング t 12

壁 石膏ボード t 12 下地 クロス貼

天井 石膏ボード t 9.5

電気設備： 受電方式 低圧受電

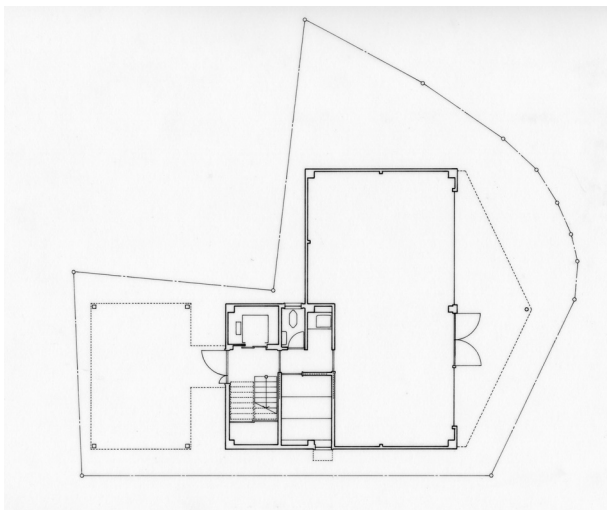
空調設備： 冷暖房方式 空冷ヒートポンプ方式

衛生設備： 給水 上水道直結・井戸

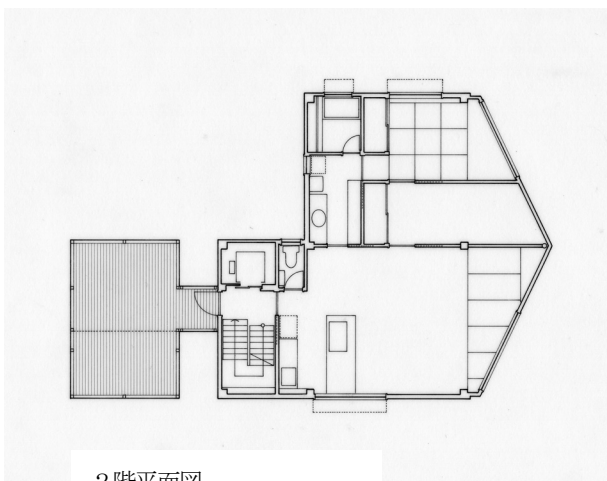
給湯 ガス湯沸器暖間式

排水 下水道直結

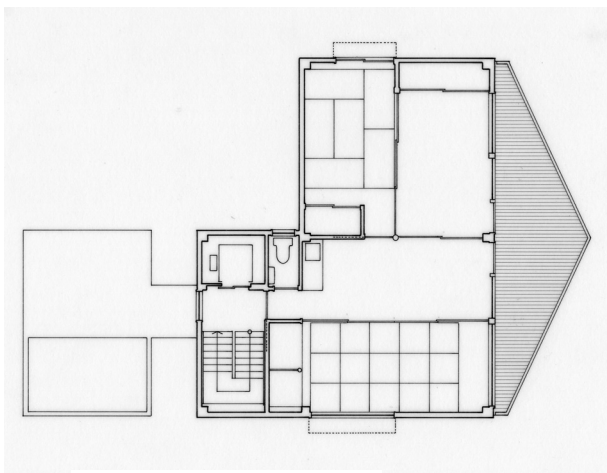
(提出期日 2003年3月5日)



1 階平面図



2 階平面図



3 階平面図